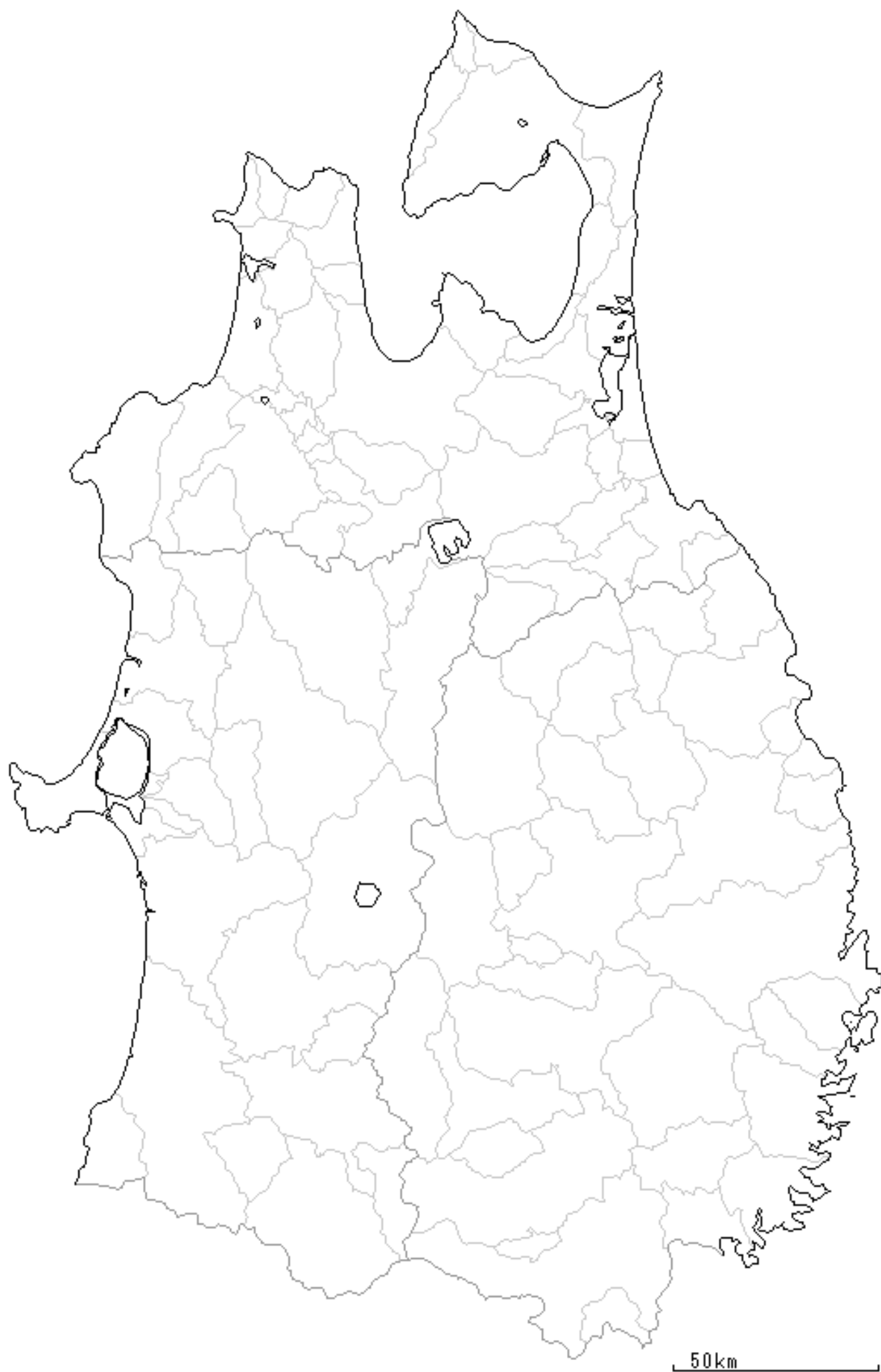
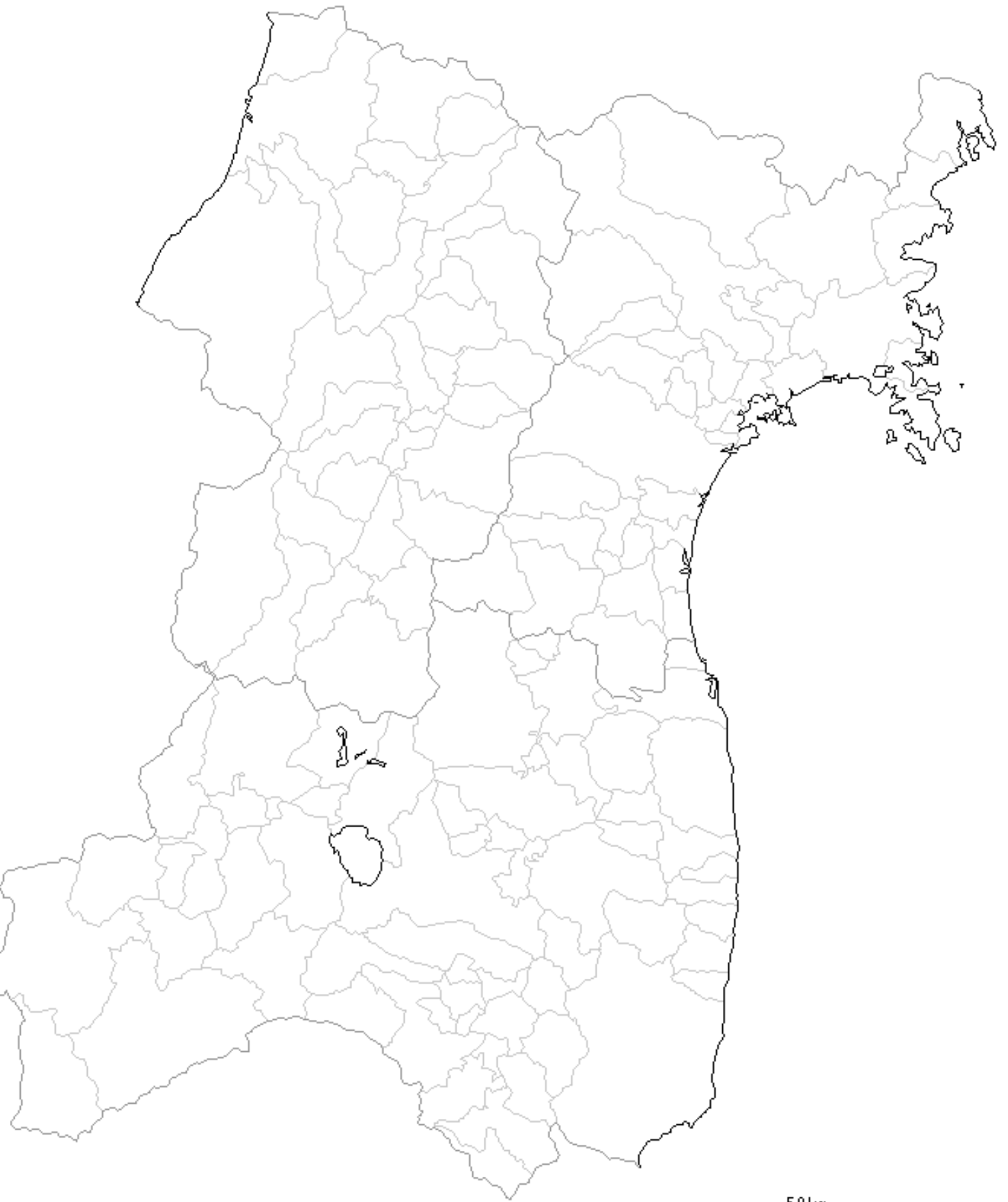


白地図 (青森/岩手/秋田)





50km

地理動画⑧東北

関連サイト

福島県

磐梯山 http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004380025_0000

会津若松城 <http://gyao.yahoo.co.jp/player/00473/v09828/v0982700000000541180/>

尾瀬 http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990394_0000

山形県

花笠 <http://gyao.yahoo.co.jp/player/00473/v09827/v0982700000000541065/>

蔵王樹氷 http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990120_0000

銀山温泉 http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004430207_0000

鳥海山（おくりびと） http://www.youtube.com/watch?v=E_z0_MLvww

秋田県

かまくら <http://gyao.yahoo.co.jp/player/00473/v09822/v0982200000000541018/>

なまはげ http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990118_0000

白神山地 http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990355_0000

青森県

奥入瀬 http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990091_0000

八甲田山樹氷

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_aomori_20100304_2371

弘前城桜祭 http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990070_0000

ねぶた http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990693_0000

津軽平野

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?did=D0013772606_0000

青森県訪問

<https://www.youtube.com/watch?v=xi9ClpFRJD0>

岩手県

浄土ヶ浜

盛岡 <http://gyao.yahoo.co.jp/player/00473/v09828/v0982700000000541073/>

八幡平

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_mount_20100302_1710

遠野 <http://gyao.yahoo.co.jp/player/00473/v09828/v0982700000000541074/>

平泉 <http://gyao.yahoo.co.jp/player/00473/v09828/v0982700000000541075/>

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004080075_0000

三陸

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?did=D0013771820_0000

宮城県

松島 http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990200_0000

鳴子峡 http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?did=D0013770983_0000

高田の独り言

東北人のキャラクター

近代以前の奥羽、すなわち東北は、日本のその他の地域から見てエキゾチックな魅力あふれる土地でした。それが詩情をかきたて、多くの詩歌や俳句を生んできました。百人一首にも数首、都人からみた「オリエンタルなみちのく」があらわれる和歌もありますし、江戸時代の松尾芭蕉が「奥の細道」で詠んだ俳句も学校で習ったことと思います。

しかしそれらはみな京や江戸といった都会人がつくりあげたみちのく像であって、そこに住む人の視点はまた別のところにあります。本格的に東北出身の文学者が活躍するのは明治末期から大正時代に入ってからです。詩と小説の宮澤賢治（岩手）、小説の太宰治（青森）、短歌の石川啄木（岩手）と斎藤茂吉（山形）らの作品を私は小学校から高校の教科書で学んできましたが、その中に込められた寂しさ、なつかしさ、苦しき、あきらめなどは、漱石や鴎外、藤村や子規、芥川、川端などの洗練された美意識や哲学的思考とは明らかに質が異なります。

それは昭和後期のアニメのキャラクターでいいますと、「サザエさん」に出てくる三河屋のサブちゃん（青森・山形）、「キテレツ大百科」の勉三さん（山形）、「いなかつ大將」のだいちゃん（青森）といった、要領はよくなくとも朴訥でまじめなキャラクターに通ずるものがあります。漱石や芥川が吉祥寺のオーガニックフーズ専門店で購入する無農薬野菜ならば、啄木や宮澤賢治は岩手出身の千昌男が歌う「北国の春」ではありませんが、田舎のおふくろが郵便で送ってくれた泥のついたまま地方紙でくるんだ野菜とでもいえるでしょう。

このようなキャラクター設定にされがちな東北人ですが、私はそれが一連の「敗北の歴史」に起因していると考えます。



↑アテルイ想像像（奥州市埋蔵文化財研究センター）

古代においては北方で朝廷に従わぬ地域を治めながらも坂上田村麻呂に「平定」された蝦夷の長、アテルイ。中世においては鎌倉幕府の命令にも従わず頼朝と刃を交え、燦然と輝く平泉の黄金文化を灰燼に帰した奥州藤原氏。近世においては奥州に覇を唱え、天下に覇を唱えようとした矢先、秀吉の小田原攻めの際には苦渋の選択で秀吉の軍門に下りながらも領地を減らされた独眼竜伊達政宗。近代においては幕末に京都守護職として幕府の代わりに朝廷に仕えながらも幕府が大政奉還してからは戊辰戦争により朝敵とされた会津藩および奥羽越列藩同盟。これらの共通点は「歴史の転換期にいいところまでいきながら結局は敗北する」ということです。

明治期には薩長土肥の藩閥政治により、東北出身者は政治的に出世できず、東北出身の総理大臣は大正時代をまたねばなりません。そしてついに大正デモクラシーの理論的指導者である宮城県出身の吉野作造が、天皇のもとではみな平等という「民本主義」を唱え、同じころ盛岡出身の平民宰相、原敬が総理大臣となりました。このような流れのなかで大正前後に東北の近代文学は花咲いたのです。それはある意味、特に近代において東北が受け持たされた一種の「敗北感」が文学というフィールドでうまく開花したかのようにも思えます。

それにしても注目に値するのは、連戦連敗しながらもいつのまにか立ちあがっているこの東北の粘りとしぶとさです。そしてこの東北人の粘りとしぶとさを体現したのが、80年代初期に社会現象を起こした「おしん」といえるでしょう。この度の未曾有の災害にあって、西日本の各県が被災者を受け入れようとしますが、それに応じる人はそれほど多くなく、たとえ体育館住まいでも故郷を離れようとしない場面をテレビで見ました。そして私はそこに耐えがたきを耐えるおしんを、故郷のことを愛してやまぬ啄木を、不屈の闘志を燃やすだいちゃんの姿を重ね合わせずにはられません。

東北と縄文

農耕文化が日本列島に入る前の縄文時代は、東北の方が他地域よりも人口が多かったと推測されています。その理由はこの奥羽山脈に代表される森林面積の広さです。森林面積が広ければ、木の実をとることもでき、狩猟もできます。また木があるところには川が流れるため、魚介類に事欠きません。そのようにして五、六千年前には青森に三内丸山遺跡などという巨大な集落ができたのです。また、火焰型の縄文土器や土偶なども東北を中心として出土しています。有史時代になる以前のこれらの文化は、大陸から仏教や儒教などの「高級な」支配層の文化が流入して文化や文明が大きく変形する以前の、より「純粋」な庶民文化の源泉といえるでしょう。下北半



島の恐山や山形の出羽三山などには、霊界とこの世の境であることを強く感じさせる空間があります。

明治末期に岩手県の遠野で、柳田國男が河童や座敷わらしなどの伝承をあつめて「遠野物語」として発表したことから分かる通り、大陸文明流入以前の縄文的な民衆文化を探求する日本の民俗学もこの東北の地から始まったのです。

↑河童が出るという淵（遠野市）

縄文文化は現代の東北にも生き続けます。20世紀の日本の版画家を代表する棟方志功の作品には非常に縄文的な大胆さ、おおらかさが感じられます。また宮崎駿監督のアニメ映画「もののけ姫」もエミシ、すなわち東北（白神山地がモデル）のアシタカや、縄文時代の服装をしたヒロイン、サンなどがでてきます。彼らの生活様式は、出雲など西日本ではすでに発達していた「たたら製鉄（朝鮮半島より導入）」という工場制手工業社会と対比的に描かれます。また、今なお青森県各地でひかれるねぶた（ねぷた）に描かれる武者のらんらんと輝く目や、とび跳ねながらそれを追う「はねと」とよぶ若者たちのリズムを見聞すると、きちんと型に従って芸道を学ばせようとする貴族や武士の文化とは本質的に異なるものを感じないではられません。

東北に対して他地域の人まで懐かしく思わせるものがあるとするなら、それは近代に形成された「ふるさと」的イメージだけではなく、大陸文化流入以前の縄文文化がそこに色濃く残っていて、それが我々の心にある縄文的感性と共鳴するからかもしれません。

あれから半年後の南三陸

リアス式海岸の美しさで知られる三陸海岸の南は牡鹿半島です。そしてこの半島の南には古くから現世利益の神として名高い島、金華山が浮かびます。東日本大震災の震源となったのもこの島の東ですが、震災から半年後の2011年9月にここを訪れようとしたのですが、震災前にフェリーの定期便があった石巻や女川の港が壊滅状態になったのであきらめました。

私は仙台でレンタカーを借り、牡鹿半島の付け根を横断して石巻から女川に向かいました。女川の漁港近くに近づくとがたがた道になります。震災前は東北有数の漁港だった女川漁港に近づくと、がたがた道の両側に津波ではぎ取られた壁や屋根を通して向こうが丸見えになっている家屋やビルが増えてくるだけで、まともな家など見当たりませんでした。カーナビで「佐藤水産」と入れて目的地に向いました。「佐藤水産」とは、あの津波がこの街を襲った日、常務が中国人研修生に津波の被害に遭わないよう、安全な小高い丘に避難させてからもう一度家族を救うために山を下りたけれど、それきりになったことで知られる水産会社です。この「捨身成仁」の「美談」は中国でも大きく取り上げられたのですが、この話がどうしても気になり、その「現場」を訪れたかったのです。しばらくするとカーナビは機械的な声で「目的地付近に到着しました。案内を終了します。」というので



すが、「案内」されたところには大きな倉庫のようなもの、いや、実は倉庫だったのか識別ができない鉄筋の骨組みに、所々屋根や壁らしきものがくっついて建物が数棟あるだけ。仕方なく佐藤水産らしき場所を見下ろす小高い丘に上がりました。この坂道を佐藤常務は中国人研修生たちを連れて上り下りしたのだろうかと考えながら、廃墟に向かって数珠を手につけ般若心経を唱えました。

↑がれきがうず高く重なる南三陸町

次に南三陸金華山国定公園の美しい海沿いを通して、この町から南三陸町に行こうと思いましたが、まだ道路が復旧していないらしく、かなり大回りして南三陸町に向かいました。この町に行った理由は、あの日この防災センターに勤める遠藤さんという結婚を半年後に控えた享年24歳の女性が、センターが津波にのまれる間際まで避難勧告の放送をし続けたという、その場を見たかったからです。町内に入るとここは平地面積が広いからか女川以上に廃墟が続くように見えました。一面の瓦礫の原に目立つのは、半年前まで街の老若男女が集ったは

ずの大型スーパーの建物です。それ以外にはあまり視界を遮るものがほとんどなく、お目当ての防災対策庁舎のあらわになった赤い鉄骨はすぐに分かりました。壁も屋根も全く残っておらず、丸裸になったこの建物の跡。入り口らしき場所に立つと、「防災対策庁舎」のプレートが残っているだけで、壁があったはずのところからは一面の廃墟が、屋根があったはずのところからは初秋の青空が広がっていました。入り口付近には遠藤さんを祀る祭壇があり、千羽鶴などが置かれていました。そういえば半年後に結婚を控えていたというなら、いまごろ挙式だったのかと思うと胸が痛く、ここでも合掌して般若心経をあげました。

それにしてもあの光景はあまりにも悲しく、痛ましい限りでした。あの日までは風光明媚なリアス式海岸をほこる南三陸・牡鹿半島だったが、今後しばらくは瓦礫と廃墟のイメージが先行することでしょう。しかしいつか復興したときでも、これらの勇気ある人々の行動は風化させてはならないでしょう。